

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社アイエヌライン 名古屋営業所	階数	地下0階地上2階
建設地		構造	S造
用途地域	都市計画区域内 市街化調整区域	平均居住人員	20人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年10月 予定	評価の実施日	2025年10月1日
敷地面積	7,830 m ²	作成者	前田芳弘
建築面積	2,539 m ²	確認日	2025年10月2日
延床面積	3,088 m ²	確認者	佐藤 道太郎

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	83%
③上記+②以外の	83%
④上記+	83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.7

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <table border="1"> <tr><td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td><td>10.6 %</td></tr> <tr><td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td><td>0.0 %</td></tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	10.6 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	10.6 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
株式会社アイエヌライン 名古屋営業所

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分			住居・宿泊部分			全体	
配慮項目	独自基準	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質													2.4
Q1 室内環境													-
1 音環境													-
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音				-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
1.3 吸音				-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
2 温熱環境													-
2.1 室温制御				-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 室温				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
2 外皮性能				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
3 光・視環境													-
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光率				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
2 方位別開口				-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御				5.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
3.3 照度				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
4 空気環境													-
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
4.2 換気				-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 換気量				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
4.3 運用管理				-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能													-
1 機能性													0.43
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
3 バリアフリー計画		独自		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理				-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性													0.52
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.5	3.1	0.52	-	-	-	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.4	0.33	-	-	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			クロス貼り	-	5.0	0.09	-	-	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			給水B、排水B、通気A	-	5.0	0.15	-	-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性				0.1	3.0	0.19	-	-	-	-	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
3 電気設備		②		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	

3 対応性・更新性				0.4	3.6	0.48	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			階高: 1階6.700m, 2階3.900m		5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率: (78.0+28.5)×2/2521.5=0.08	3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性		②			3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57		-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出		独自③			1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			2.0	0.40		-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30		-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-		-	-	3.7
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.52	3.0	5.0	0.22		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	-	-		-	-	-
3 設備システムの高効率化			BEI=0.64	3.0	4.6	0.56		-	-	4.6
4 効率的運用				0.2	3.0	0.22		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価				-	-	-		-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	3.6
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水			節水型便器の使用	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.7	0.63		-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-		3.0	0.21		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	リサイクル砕石、床下断熱材(ポリスチレンフォーム保温版3種)	3.0	4.0	0.21		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	評価する取り組み2項目	3.0	5.0	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.5	0.22		-	-	3.5
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	-	-		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				1.0	3.5	1.00		-	-	
1 消火剤					-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			地球温暖化係数が低い発泡剤を用いた断熱材を使用		4.0	0.50		-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率83%		3.6	0.33		-	-	3.6
2 地域環境への配慮				0.3	2.8	0.33		-	-	2.8
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない。		5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制		独自			3.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音		独自			3.0	1.00		-	-	
2 振動		独自			-	-		-	-	
3 悪臭					-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制					1.0	-		-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70		-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社アイエヌライン 名古屋営業所

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:10.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社アイエヌライン 名古屋営業所

計画上の配慮事項	
総合	メンテナンス性を考慮した設計とした。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	維持管理に配慮した設計、階高、空間の自由さを確保し建物の機能性を高めている。
Q3 室外環境(敷地内)	既存建物に合わせた外観とし、周囲に調和するものとした。
LR1 エネルギー	高効率な照明器具を採用するなど省エネルギー性能を高めている。(BEIm=0.64)
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上材が容易に分別可能になっている。
LR3 敷地外環境	搬出入口は十分なスペースを確保し地域の交通不可抑制に配慮している。
その他	特になし